

令和元年度第1回登別市子ども・子育て会議議事録（要旨）

■日 時 令和元年11月28日（木）18時00分～19時35分

■場 所 登別市役所 第二委員会室

■出席者 委 員 中村委員 中野委員 佐藤委員 佐野委員 戸井委員 片岡委員
浜委員 堀井委員 稲葉委員 木村（由）委員 木村（義）委員
小山内委員、片山委員、河上委員、鳴海委員、阿部委員
事務局 松本保健福祉部長 沼田保健福祉部次長
平田こども育成グループ総括主幹 百貫こども家庭グループ総括
主幹 北村こども育成グループ主査 熊谷こども家庭グループ主査
今野こども家庭グループこども相談室主査 館岡担当員

- 議 事
- （1）会議の運営について
（会長・副会長の選任、会議の公開等）
 - （2）公立保育所の運営委託について
 - （3）第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について
 - ①第1期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について
 - ②ニーズ調査結果と量の見込みについて
 - ③今後のスケジュールについて
 - （4）その他

- 資 料
- 資料1 登別市子ども・子育て会議条例
 - 資料2 登別市子ども・子育て会議の運営について
 - 資料3 公立保育所の運営委託について
 - 資料4 第1期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況
 - 資料5 登別市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果（就学前児童）
 - 資料6 登別市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果（小学生）
 - 資料7 将来人口推計と教育・保育等の量の見込み
 - 資料8 今後のスケジュールについて
 - 別 添 子ども・子育て支援事業計画（第1期）

1. 開会

2. 委嘱状交付

委員となる方へ委嘱状の交付。

3. 主催者挨拶

市長・副市長不在のため、松本保健福祉部長より、主催者挨拶

(配布資料確認：資料1～8)

登別市子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定により、会議成立報告。

4. 議事

(1) 会議の運営について

- ・事務局一任により、会長は登別市校長会の中村委員を、副会長には登別市私立幼稚園協会の佐藤委員を事務局より推薦。
異議は無く、会長は中村委員、副会長は佐藤委員に決定。
- ・会議の公開等について、資料2、事務局（案）のとおり異議はなく、事務局（案）に決定。

(2) 公立保育所の運営委託について

(事務局)

- ・資料3のとおり、栄町保育所及び幌別東保育所の民間委託が決定した。
- ・12月中旬に各保育所2回ずつ計4回の保護者説明会を行う。

【質疑・意見交換】

(委員)

- ・栄町保育所には保護者会があったと思うが、民間委託された場合、保護者会はどのような形になるのか。

(事務局)

- ・現在、栄町保育所の保護者会は活動休止状態となっている。

(3) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について

① 第1期子ども・子育て支援事業計画の策定について

(事務局)

- ・第1期子ども・子育て支援事業計画が令和元年度末を持って期間が満了となることから計画の振り返りを行った。
- ・資料4に基づき説明。
- ・資料が膨大であるため、今すぐに質問というのは難しいと思う。そのため各々で資料を読んでいただき質問や意見をまとめ、質問票で事務局へ伝えてほしい。

【質疑・意見交換】

(委員)

- ・保育士不足という問題に対して、具体的にどのように取り組んでいるのか。また、成果はでているのか。

(事務局)

- ・以前の子ども・子育て会議において、近隣市が人材バンクを導入した際に登別市でも導入できないかという話があった。しかし、導入した市に確認をしたところ、それだけでは成果を得ることができていないという回答であった。
- ・登別市私立幼稚園協会と協働の元、潜在保育士の掘り起こしのため体験する場を設けることとした。
- ・体験後、就労する意志のある方を、市で台帳登録し、登録状況を各施設の代表者に限り閲覧可能な状態に、潜在保育士の就労につなげたいと考えている。調整等が整ったので12月広報で初めて周知する。
- ・手当の支給などを実施している市町村もあるが、現状では費用をかけないで確保に取り組みたいと考えている。なお、今後の状況等も勘案しながら、財政負担も含めて民間事業者と意見交換したいと考えている。

(委員)

- ・保育士不足解消のために取り組んでいることは了解した。

(委員)

- ・資料によると0、1、2歳児クラスで待機児童が発生しており、その年齢の保育士が不足しているように考えられるが、市では年齢に応じた保育士の募集をしているのか。
- ・全体で保育士が不足しているということか。

(事務局)

- ・保育士は年齢に応じた募集をしているわけではない。
- ・あくまで資料に載っているのは待機児童数であり、保育士は全体として不足している。
- ・実態として低い年齢（3歳未満児）のクラスでは一人の保育士が担うことのできる児童数が少ないこと。配慮の必要な児童に対し、加配という形で手厚く保育士を配置していることも保育士数が不足している原因の一つ。0・1・2歳児クラスでは待機児童が発生している。
- ・仮に加配が必要ない場合は、待機児童は発生しないだけの保育士はいる。

② ニーズの調査結果と量の見込みについて

(事務局)

- ・資料5、6、7に基づき説明。
- ・ニーズ調査結果は、就学前児童版・小学生版ともに一部変化はあったが、概ね5年前の調査結果と同様である。
- ・現在、5か所の保育所の定員数を合わせると540人である。定員数と利用希望者数を比較して利用定員数は確保できている状態であるが、保育所の運営委託に伴い適正な定員数の見直しが必要であると考えている。
- ・委託することが決定した幌別東・栄町保育所は、定員を90人まで減らし、保育所全体の利用定員数を480人にしたいと考えている。
- ・定員数の20パーセントまでは超過して受け入れることが可能となっているため、受け入れる枠は確保できている。

【質疑・意見交換】

(委員)

- ・5年前の調査結果をもとに行った施策、施策を行った結果、結果を踏まえた今後の計画を比較できる表があると理解しやすい。
- ・国は包括的な子ども・子育て支援を目指している。
- ・資料からは病児・障がい児の対策を読み解くことが出来ないため、次回以降に市の意見を聞かせてほしい。
- ・現状の課題とニーズを比較し、市として重点を置いて取り組んでいく部分を示してほしい。

(事務局)

- ・すべての事業をわかりやすく資料を用意することは難しいため、資料が欲しい部分は事務局に要求してほしい。
- ・基本指針の中で、障がい児に関する部分を計画に組み込むことになっているので「第1期登別市障がい児福祉計画」との整合性も考慮しながら進めていきたい。

(委員)

- ・今回のニーズ調査では「第1期登別市障がい児福祉計画」との兼ね合いから、障がい児の保護者への質問が削除されたが、国が目指すのは包括的な支援ということであり、他部署と重なる分野について市はどのように対応するのか。

(事務局)

- ・他部署と重なる部分については、関係部署と協議の上、整合性のとれた計画にしたいと考えている。

③ 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・資料８のとおり、第２回までに事務局で計画（案）を作成し、第２回会議で素案について協議する。その後も引き続き協議を行い、計画（案）についてパブリックコメントを実施し、計画の確定に取り組んでいく。
- ・会議の回数は、計画の進捗状況によって前後する可能性もある。

(４) その他

(事務局)

- ・市内にある富浦児童館について情報提供。
- ・以前より施設の老朽化や利用児童の減少を理由に、廃止を検討してきた富浦児童館であるが、議会報告及び地区住民説明会を行い、令和元年度末で廃止する予定である。

以上